

「リーダーの一流、二流、三流」という本からです  
三流は、期限が近づいてからやり、二流は、着手する日を決め、  
一流は、数分でもいいので、その日のうちに着手する

リーダーになると、プレイヤーのときより、会議の回数や作成する資料が大幅に増えます。また上司や部下、関係部署などから、声をかけられることも格段に増えます。

リーダーのCさんはコミュニケーション力が高く、営業成績はトップでしたが、計画的に仕事を進めたり、事務処理をするのが苦手でした。

つい場当たりの仕事のやり方をしてしまい、期限の迫っているものから片づけていきます。

「緊急性が高く、重要でない仕事」を、「緊急性が低く、重要な仕事」より優先させてしまっていたのです。子どもの頃から、夏休みの宿題をギリギリになってから手をつけるタイプだったのですが、リーダーとなった今でも、ギリギリにとりかかることが多く、部下や事務職の方をひっかき回して、仕事を手伝わせています。これでは、質の高い仕事できません。このような仕事の進め方をするリーダーなんていないだろうと思われるかもしれませんが、意外に多いものです。

一方で、隣の課のリーダーのBさんは、長期間を要する仕事を頼まれたら、ゴールからざっと逆算して、開始日をスケジュールに書き込んでいました。

仕事を期限内に終わらせることのできない人のほとんどは、着手が遅いのです。

人は意外に着手するまでに労力を要します。特に複雑な仕事や、はじめてやる仕事はその傾向が強くなります。皆さんも新しいことをやろうと思っていたのに、つい面倒くさくて先延ばしにしてしまったなんていう経験はありませんか。Bさんは、仕事を分割し、開始日も決め、あらかじめその仕事に費やす時間も確保していました。しかし、これでもBさんはまだまだ一流の仕事のやり方をしていとは言えません。このような几帳面なリーダーのBさんも、たまに期限ギリギリになってしまうことがあるのです。

では、一流のリーダーはどのような仕事のやり方をしているのでしょうか。実は、一流は着手日を決めないのです。

えっ、それでは三流のリーダーと同じではないかと思われた方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、もちろん、三流のリーダーとは違います。一流は、仕事の全体像を掴むため、仕事を受けた時点で数分でもいいので、その仕事にとりかかるのです。上司から仕事の説明を聞いたばかりなので、作業のイメージもはっきりしていて、計画が立てやすくなります。さらに、「このパートは遅れるかもしれない、バッファ（予備時間）をとっておこう！などと考えられるのです。また何より、その日のうちに関係各部門や、部下への依頼もできるので、相手もスケジュールを立てやすくなります。当然、相手からの信頼も高められます。

カッコ内を埋めてください

一流は、( ) を掴むため、仕事を受けた時点で数分でもいいので、

その( ) にとりかかるのです。上司から仕事の説明を聞いたばかりなので、

( ) もはっきりしていて、計画が立てやすくなります。